

令和 2 年度 事業報告

令和 2 年 4 月 1 日から

令和 3 年 3 月 3 1 日まで

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

目 次

I 現況	1
1 事業	1
2 役員等	1
3 評議員	1
4 顧問等	2
5 事務局	2
6 地区組織	2
7 事業資金	2
II 理事会・評議員会等	3
1 理事会	3
2 評議員会	4
III 事業実施の概要	5
1 一般事業	5
2 普及事業	6
3 振興事業	7
4 助成事業	8
5 その他助成事業	12
IV 登記事項、届出・報告事項	13
V 附属明細書について	14

I 現況

1 事業

本会の定款に掲げる事業は、次のとおりである。

- (1) 団体の行う吟剣詩舞に関する協力および援助
- (2) 吟剣詩舞に関する研究
- (3) 指導者の養成ならびに研究会および講演会等の開催
- (4) 発表会およびコンクールの開催
- (5) 吟剣詩舞功労者の表彰
- (6) 会誌および図書の刊行
- (7) その他目的を達成するために必要な事業

2 役員等（令和3年3月31日現在）

代表理事

会 長 沼崎 富（星翁）
専務理事 広渡 英治

業務執行理事

副会長 八文字勝利（剛洲）、安永利一（江悠）、原 真人（青柳芳寿朗）
常任理事 加藤雅章、大田直樹、吉田茂男（魁桜）、山内直之（正風）、
多田稔雄（正稔）、田尻誠行（向山侑吟）、黒田利忠（秀月）、
宮川 進（紫朋）、山口英二（華雋）、山本 剛（賀陽）
理 事 重吉富巳（岸ユキ）、内田のり子（寿子）、片桐正之、三橋陸雄（吟煌）、
徳田良子（寿風）、山田則夫（静将）、横山信吾（精真）、
山本憲一（兼正）、笠井俊生（栄俊）、山下勝昭（明穂）、
氏原健一（容石）、田村和夫（天聖月）、杉山広子（翔鴻）、
佐藤彰徳（翔風）、早淵淳子（河野鶴聲）、中山勝治（岳襄）、
大本則夫（翠山）、渡邊明子（大伊達不朽）、妹尾桂子（藤上翔山）、
小塩益廣（晃楼）
（理事 35名）

監 事 渡部行光、毛塚静子（静精）、清水伸一（穂晨） （監事 3名）

3 評議員（令和3年3月31日現在）

河田千春（鴈泉）、足立 勝（育城）、松島康夫（南洲）、後藤ひろみ（月戈）、
小澤武久（照風）、菊川禎恵（八千穂）、早淵 肇（鯉将）、濱元義行（邦雪）、
渡邊賢次（皇洲）、澤石政勝（峯洲）、安田幸代（水鈴）、鷺野正明、
岸田輝夫、小 峯 力、佐野慎輔、久米信行、中島健一郎、八代徹也、
向井志穂子（成澤秀麗）、谷川真理、寺嶋靖廣（城靖）、栗野和子（電暉）、
鈴木輝明（海洲）、久保田力（正峰）、小林章男（岳章）、渡美智子（精華）、
藤嶋容美（寺山天洲）、熊木義雄（雪洲）、山下孝子（神燈）、
小峯浩一（昊苑）、丹治 昇（独風）、石井光男（誠紀）、室橋幸子（谿月）、
入倉幸一（昭山）、杉浦裕美（英容）、宇波敏明（千神）、山本演志、

臼井寛雄（寛洲）、久保義嗣（正鳳）、竹内隆一（淳泉）、多田和晃（正晃）、
 松葉 勲（水勲）、北川元明（水正）、稲田正胤（莒胤）、梶田勝美（鷹巖）、
 廣石隆司（菅源右光）、高木法生（法洲）、神田武志（清峰）、
 大島哲夫（需泉）、横山公三（公風）、内山宗信（靈崇）、稲積政治（清翔）、
 日野省三（鳳昇）、松井龍太郎（松聲）、原田重利（瑞祥）、林 建紀（靈山）、
 藤野 悟（昭鍊）、小田扶美子（葵秀鳳）、赤峰郁夫（郁靈）、
 後藤幹康（滉靈）、洲上恵子（岳恵）、藤本大輔（誠堂）、伊東宣和（秀峰）、
 松川哲二（岳匠）、柿内正幸（岳正）、長谷部守（紫帛）、清水 一（錦洲）、
 矢橋奉源（奉城）、前濱俊明（錦城）、大澤三枝（雅翠）、中嶋茂男（宗聖）、
 亀山悦子（尚侑）、原弦太郎（青柳弦太郎）、藤井博信（芳洲）、
 胡中 緑（翠陽）、高山浩胡（鶴山）、春菜桂子（翔桂）、大野眞里子（豊寿）、
 古賀千恵子（桜紅）、八代美恵（光晃子）、宮本和子（精秀）、
 中林良介（涼風）、浮津教雄（虔山）（評議員 83 名）

4 顧問等（令和 2 年 3 月 31 日現在）

(1) 顧問	22 名
(2) 元老	60 名
(3) 相談役	309 名
(4) 参与	544 名

5 事務局（令和 2 年 3 月 31 日現在）

所在地 東京都港区虎ノ門 3-4-10 虎ノ門 35 森ビル 7 階
 常勤役員 2 名、職員 5 名

6 地区組織

本会には 51 の公認都道府県吟剣詩舞道総連盟（以下「公認総連盟」）があり、それぞれの地区に以下の 8 つの地区連絡協議会（以下「地区連協」）を設けている。

（括弧内は公認総連盟名）

- （1）北海道地区連絡協議会（中央、南部、北部、東部、北紋：5 地域）
- （2）東北地区連絡協議会（青森、秋田、岩手、山形、宮城、福島、新潟：7 県）
- （3）東日本地区連絡協議会（山梨、群馬、栃木、茨城、埼玉、千葉、神奈川、東京：8 都県）
- （4）中部地区連絡協議会（静岡、愛知、長野、富山、石川、福井、岐阜、三重：8 県）
- （5）近畿地区連絡協議会（滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山：6 府県）
- （6）中国地区連絡協議会（岡山、広島、山口、鳥取、島根：5 県）
- （7）四国地区連絡協議会（香川、愛媛、徳島、高知：4 県）
- （8）九州地区連絡協議会（福岡、大分、佐賀、長崎、宮崎、熊本、鹿児島、沖縄：8 県）

7 事業資金

本会の事業資金は、各種事業活動による事業収入、公益財団法人日本財団等からの助成金、寄附金による。

II 理事会・評議員会等

1 理事会

(1) 第20回理事会

決議日 令和2年7月1日

開催場所 新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面決議にて開催

- 決議事項
- 1.令和元年度事業報告・決算報告及び内閣府への報告書類提出について
 - 2.定款の改正を評議員会に諮る件について
 - 3.規程の新規制定と既存規程の改正について
 - 4.参与の新規選任について
 - 5.評議員会の開催形式の変更について

報告事項 業務執行状況の報告

(2) 第21回理事会

決議日 令和3年3月25日

開催場所 笹川記念会館4階第4, 5会議室（東京都港区）

- 決議事項
- 1.新たな組織改編について
 - 2.日本財団からの文書「基本財産及び普及事業基金の毀損に係る適正な処置について」の概要と対応策について
 - 3.基本財産の処分について
 - 4.事業普及基金の取り崩しについて
 - (1) 過年度（平成29年度～令和元年度）の措置について
 - (2) 令和3年度の取り崩しについて
 - 5.日本財団との覚書締結について（普及事業基金）
 - 6.令和3年度日本財団助成金の不採択について
 - 7.日本吟剣詩舞振興会の財政状況の推移について(平成25年度～令和元年度)
 - 8.全国名流吟剣詩舞道大会の開催について
 - 9.令和3年度夏季吟道大学の開催について
 - 10.全国吟剣詩舞道大会（通称：日本武道館大会）の開催について
 - 11.令和3年度事業計画及び収支予算（案）及び付帯決議について
 - 12.第10回評議員会の開催について

報告事項 業務執行状況の報告

出欠 理事35名中29名出席（うち6名オンライン出席）、欠席6名
監事3名全員出席

2 評議員会

(1) 第9回評議員会

決議日 令和2年7月16日

開催場所 新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面決議にて開催

決議事項 1.令和元年度事業報告・決算報告及び内閣府への報告書類提出について
2.定款の改正について
3.評議員欠員分の追加選任について

報告事項 今後のスケジュール等

Ⅲ 事業実施の概要

1 一般事業

(1) 組織化促進事業

全国 8 地区連絡協議会の運営がそれぞれの書記局において行われた。

① 各地区連絡協議会の運営

- ◎各地区連絡協議会執行部会議等の開催
- ◎地区内の公認各吟剣詩舞道総連盟の組織運営への協力
- ◎地区内会員の掌握と会員間諸問題の調整
- ◎振興会行事への協力

② 全国地区連絡協議会代表者会議の開催

新型コロナウイルス感染拡大に伴い開催中止。

③ 将来ビジョン会議の開催

新型コロナウイルス感染拡大に伴い開催中止。

(2) 協力援助事業

吟剣詩舞優秀団体の行う行事に対する協力及び援助を行った。

① 傘下団体の行う行事に対する協力援助

傘下団体の行う吟剣詩舞に関する行事 15 件に対し、後援名義の貸与等の協力を行った。

② 全国高等学校総合文化祭・吟詠剣詩舞部門に対する協力援助

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、全国高校総合文化祭がオンライン動画での発表となったため、実施しなかった。

③ 青少年育成推進のための協力援助

◎青少年大会開催に対する協力援助

例年青少年吟剣詩舞道育成基金運用の一環として、青少年を対象とした大会等を開催する公認総連盟に対し協力援助金（各 100,000 円）の交付を行っているが、本年度は申請がなかったため実施しなかった。

(3) 研究会開催事業

吟剣詩舞に関する専門委員会の開催を行った。

◎第 41 回吟詠専門委員会

開催日 令和 3 年 3 月 13 日

場所 笹川記念会館第 5 会議室

出席者 吟詠専門委員 11 名ほか、オブザーバー 3 名

※剣詩舞専門委員会は新型コロナウイルス感染拡大に伴い開催中止とした。

(4) 功労者表彰事業

令和2年度吟剣詩舞大賞受賞者の選考並びに表彰を行った。

第34回吟剣詩舞大賞選考委員会を持ち回りで開催し、吟剣詩舞功労賞に次の5氏を選考し表彰した。

吟剣詩舞功労賞	佐々木朝鵬	吟詠家・東京都
〃	山内 正風	吟詠家・愛知県
〃	北川 哲水	吟詠家・奈良県
〃	山本 賀陽	吟詠家・広島県
〃	古庄 吟法	吟詠家・熊本県

2 普及事業

(1) 広報活動事業

吟剣詩舞の周知宣伝のための広報活動を行った。

- ① 日本吟剣詩舞振興会Webサイトの運用促進を図った。
- ② 吟剣詩舞の広報を図るために、ムックの販売促進を行った。
- ③ 新聞、雑誌などへの広報活動を行った。

3 振興事業

(1) 発表会開催事業

令和2年5月5日(火・祝)に熊本県熊本市の熊本城ホールにて全国名流吟剣詩舞道大会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、開催中止とした。

(2) 吟詠教本発行事業

吟詠統一教本(既刊図書)を作成配布した。 ※()内は前年度販売実績

・吟剣詩舞道漢詩集(絶句編)解説書	82部	(170部)
・吟剣詩舞道漢詩集(律詩・古詩編)解説書	57部	(75部)
・吟剣詩舞道漢詩集(続絶句編)解説書	72部	(137部)
・吟剣詩舞道アクセント付漢詩集(絶句編)	135部	(310部)
・吟剣詩舞道アクセント付漢詩集(律詩・古詩編)	70部	(278部)
・吟剣詩舞道アクセント付漢詩集(続絶句編)	124部	(424部)
・幼少年向けテキスト『はじめての吟詠』	22部	(19部)

(3) 会報発行事業

吟剣詩舞に関する広報並びに情報誌として、月刊「吟と舞」を発行した。

令和3年3月31日現在の有料発行部数は5,377部(昨年度末6,015部)である。

(4) 教材頒布事業

吟剣詩舞道吟詠集(CD、カセットテープ)の作成配布及び吟剣詩舞道伴奏集(同)の監修指定など、吟剣詩舞に関する教材の製作頒布並びに既刊教材の頒布促進を行った。
また、和歌の吟詠をまとめたCD「和歌新撰集「令和」」の製作頒布を行った。

※()内は前年度販売実績

教材としての吟詠集の製作頒布数

・令和2年度吟剣詩舞道吟詠集CD	31本	(3,790本)
・よみがえる名吟集CD	17本	(131本)
・和歌新撰集「令和」CD	108本	(100本)

教材としての伴奏集の製作監修並びに振興会指定数

・吟剣詩舞道伴奏集CDの指定数	286本	(1,155本)
・吟剣詩舞道伴奏集テープの指定数	5本	(20本)
・続・吟剣詩舞道伴奏集CDの指定数	195本	(370本)
・続・吟剣詩舞道伴奏集テープの指定数	1本	(3本)

4 助成事業（日本財団助成事業）

（１）吟剣詩舞普及振興のための全国吟剣詩舞道大会の開催

① 事業の実施内容

「吟と舞祭り」

日時：令和２年１１月１日（日）

場所：日本武道館（東京・九段下）

※会場は無観客としYouTubeを利用した映像配信を実施した。

内容：少壮吟士、剣詩舞社中、吟詠・剣詩舞スーパーチーム出演の企画構成番組

ゲストアーティスト（NMB48）のパフォーマンス

ゲストアーティストと吟詠・剣詩舞スーパーチームのコラボレーション

ムック吟と舞「吟と舞祭り特集号」の編集、印刷、販売。

② 事業目標の達成状況

例年日本武道館にて開催している全国吟剣詩舞道大会は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い開催中止とした。

代替事業として、吟詠・剣詩舞スーパーチームや少壮吟士などが出演する企画構成番組を「吟と舞祭り」と称して開催し、会場を無観客とした代わりにYouTubeを使ったライブ配信を実施した。

本配信については、スーパーチームとのコラボ企画に女性アイドルグループNMB48が出演したこともあり、見逃し配信を含めて２０２１年４月６日現在で約５万１千回視聴されている。

また、イベントの様子を収録したムック吟と舞「吟と舞祭り特集号」を４千部制作し、書店やAmazon等を通じて販売した。

④ 事業費総額及び助成金等

事業費総額 ９１，３６６，８１２円

助成金 ９１，３６６，８１２円

自己負担分 ０円

(2) 吟剣詩舞普及振興のためのコンクールの開催

① 事業の実施内容

開催日

- | | |
|--|-------------|
| ア. 令和2年度全国剣詩舞コンクール決勝大会（以下「剣詩舞コンクール」） | 開催中止 |
| イ. 令和2年度全国吟詠コンクール決勝大会（以下「吟詠コンクール」） | 開催中止 |
| ウ. 第48回全国少壮吟詠家審査コンクール決勝大会（以下「少壮コンクール」） | 令和3年3月14日開催 |

内 容

全国コンクールのうち、例年9月に開催している全国剣詩舞コンクール決勝大会と全国吟詠コンクール決勝大会は、第1次予選である都道府県大会が新型コロナウイルス感染拡大に伴う1回目の緊急事態宣言発令の時期と重なり各地の公共施設が使用できず大会実施が不可能となったため、第2次予選の地区大会並びに決勝大会は開催中止をせざるを得ない状況となった。

全国少壮吟詠家審査コンクール決勝大会については、昨年度中止により出場できなかった43名が出場し、会場無観客、運営役員も最小限に抑えて感染症対策を講じた上で実施した。

大会実施の結果、43名中6名が入選。入選者のうち4名が3回目入選者で少壮吟士候補となった。

また、会場無観客とした代わりにコンクールの模様をYouTubeでライブ配信し5,363回視聴された。コンクール実施後はハイライト動画を配信している。

② 事業目標の達成状況

少壮コンクールについては、出場者43名のうち6名が入選し、入選者のうち4名が少壮吟士候補となった。

③ 事業費総額及び助成金等

事業費総額	4,151,420円
助成金	4,151,420円
自己負担分	0円

(3) 吟剣詩舞普及振興のための講習会の開催

① 事業の実施内容

ア. 夏季吟道大学	開催中止
イ. 少壮吟士夏季吟詠特別研修会(以下「少壮研修会」)	開催中止

(追加承認事業)

吟剣詩舞における新型コロナウイルス感染対策実施ガイドラインの制作

・ガイドライン制作のための飛沫実験の実施

実施日：令和3年1月29日（金）

場所：ニッショーホール（旧ヤクルトホール）

参加者：日本吟剣詩舞振興会役職員 約30名

実験協力：国立大学法人千葉大学、カトウ光研株式会社

剣詩舞入門講座動画の制作、配信

収録日：令和3年1月31日（日）

場所：ニッショーホール（旧ヤクルトホール）

参加者：剣舞家、詩舞家 各1名、国語教諭1名（内容解説）

制作スタッフ：10名

② 事業目標の達成状況

例年開催している夏季吟道大学及び少壮研修会は新型コロナウイルス感染拡大に伴い開催中止とした。

予定していた講習会が中止となったため、代替事業として助成元である日本財団の承認を得たうえで、吟剣詩舞における新型コロナウイルス感染対策実施ガイドラインの制作と剣詩舞入門講座動画の制作、配信を行った。

新型コロナウイルス感染対策実施ガイドラインの制作は、1月29日に飛沫実験を実施し、結果の取りまとめを経て、2月28日に振興会ホームページに掲載した。

また、ガイドラインとガイドラインを基に制作したハンドブックを各千部印刷し、全国各地の地区連絡協議会及び吟剣詩舞道総連盟に配布した。

剣詩舞入門講座動画については、1月31日に動画制作を行い、編集を経て2月27日にYouTubeで動画を公開した。4月6日現在で約2千回視聴されている。

③ 事業費総額及び助成金等

事業費総額	3,948,923円
助成金	3,948,923円
自己負担分	0円

(4) 吟剣詩舞普及振興のための調査研究

① 事業の実施内容

(a) 令和2年度政策委員会の実施

→将来ビジョン会議中止に伴い開催中止

(b) 吟詠・剣詩舞スーパーチーム研修会の開催

→新型コロナウイルス感染拡大に伴い開催中止

(c) 公式ウェブサイトの開発等インターネットを利用した吟剣詩舞の広報の促進

日本吟剣詩舞振興会のホームページ及びYouTubeやSNSアカウントを活用し、各種事業の宣伝や吟剣詩舞広報活動を行った。

② 事業目標の達成状況

公式ウェブサイトの開発等インターネットを利用した吟剣詩舞の広報の促進

各種事業の開催に合わせた広報展開や、ウェブサイトとテレビ局を連動させた告知などを行い、吟剣詩舞道の広報促進に努めた。また、公式ウェブサイトの改修を行い、わかりやすさ・スマートフォンでの見やすさなどの改善を行った。また公式ウェブサイトとあわせて展開している「日本吟剣詩舞振興会YouTubeチャンネル」においては、アップロードした動画本数1,367本、チャンネル登録者数4,250名、年間視聴回数が1,636,704回となるなど、この1年間で飛躍的な成長を遂げた。

③ 事業費総額及び助成金等

事業費総額	8,484,853円
助成金	8,484,853円
自己負担分	0円

5 その他助成事業

(1) 東京都事業継続緊急対策（テレワーク）助成金

① 助成元

公益財団法人東京しごと財団

② 助成金の対象事業

都内中堅・中小企業等が取り組む、新型コロナウイルス感染症の拡大防止及び緊急時における企業の事業継続対策として、在宅勤務等を可能とするテレワーク環境構築による職場環境の整備のために実施する事業

③ 金額

決定金額：1, 847, 000円

④ 事業期間

令和2年11月7日～令和2年12月25日まで

(2) 令和2年度文化芸術活動の継続支援事業

① 助成元

独立行政法人日本芸術文化振興会

② 助成金の対象事業

吟剣詩舞における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン作成事業

③ 金額

決定金額：1, 214, 000円

④ 事業期間

令和2年11月1日～令和3年2月28日まで

Ⅳ 登記事項、届出・報告事項

1 登記事項

令和 2 年 9 月 1 1 日

・評議員の変更

令和 2 年 1 0 月 2 2 日

・評議員の変更

令和 3 年 3 月 1 日

・評議員の変更

2 届出・報告事項

令和 2 年 1 1 月 5 日

・評議員変更の届出（内閣府）

令和 2 年 1 1 月 1 1 日

・事業報告等の提出（内閣府）

V 附属明細書について

令和 2 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定される附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和 3 年 6 月
公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会